

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 8 月 21 日

東京大学での所属学部・研究科等:	医学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	HKU(香港大学・東京大学合同サマープログラム)	派遣先大学:	HKU
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職	☒	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界:)	☐	6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港大学は、1887年に創立され、香港で一番歴史の長い大学である。世界大学ランキングでも、シンガポール大学について2番目につけていたこともあった。

参加した動機

まず、一国二制度への興味があった。香港は中国の領土ながらも、中国とは異なる民主主義的な政治・経済のシステムが採用されており、中国とは独自の発展を遂げてきた。一国二制度についていろいろ調べていくうちに、香港に行って自分の目で確かめるのが一番だろう、という結論になった。

また、香港はイギリス領だったので英語が話せる人が多いのではないかと、となると香港大学のプログラムに参加し向こうの生徒と交流することで刺激を受け、英語の勉強を頑張ろう、というモチベーションにつながるのでは?という思いもあった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

まず、2017年度第2回国際本部サマープログラムの説明会に参加してプログラムについての詳しい説明を受けた。どうしても説明会に参加しなかったため、Go Globalのtwitterをフォローして必ず逃さないようにしました。

応募書類なのですが、学内申請書・成績評価係数計算表・自己推薦書・大学入学後全学期の成績証明書・誓約書・英語の試験の成績を提出する必要がありました。成績評価係数計算表は学部内での「単位の割り振り」を確認して出す必要があったので、後期課程に進まれた方は教務課の方に確認してから提出するようにしましょう。英語の試験の成績は、IELTSから公式に送られた成績表のコピーを提出したのですが、探すのにだいぶ苦労しました。(個人的な話ですが)

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

香港へのビザは、日本国籍の場合90日以内であれば不要、とのことでしたので取得しませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特にしませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

OSSMAと付帯海学保険に入りました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特にしませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

英語力に関してはIELTS6.5でした。直前は忙しくて何もしませんでした。香港大学の学生は英語に加えて、日本語も話せたのでコミュニケーションをとるのは、とても楽でした。香港の人は広東語を話す(広東語しか話せない、とも言える)ので、余裕があればそちらの方も勉強しておけるとよいでしょう。(僕は前日ちょこっと勉強しただけで使い物になりませんでした...)

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

香港では、企業にインタビューに行ったりするのでフォーマルな服を持っていくとよいと思います。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

設定して各グループで企業の方のところへインタビューに行き、プログラム最終日に発表をする」ことが発表されました。

その点に関しては下調べしていなかった僕は、「え???そういうことやるんだ!」って感じでした。しかも、そのグループには東大生のみならず、海外在住歴の長い院生(英語が母語)もいれば、プログラムが始まってから合流する香港大学の学生もいたり、となんだかカオスな感じでした。

結局、最終日の発表では、どのグループも非常にレベルの高い発表をしており驚かされました。英語力が高い人が集まっているなあ、こういう人たちと触れ合えてよかったなあ、と思いました。

また、授業はその発表の準備とは別に行われました。香港の歴史についての授業を聞いたり、日系企業の香港支店に伺ってお話を聞いたり、と非常に面白い授業ばかりでした。授業は全部英語で行われ、英語で質問することが求められました。香港大学の生徒や、英語が母語の院生が質問しているのを見ると、ちょっとつらい気分になってきましたが、そういうことは気にせずガンガン質問した方がいいみたいです。

一番面白かったのはJAL訪問で、空港での飛行機の整備の様子を見たり、今にも出発しようとしている航空機の操縦席を見たり、と非常に内容が充実していました。東京大学の園田先生・香港大学の中野先生の授業も非常に面白く、おまけに、聞いていてためになる授業でした。

予習/復習としては、「Briefing/Debriefing」の時間がありました。先生が「昨日のこの授業でどんなことを言っていましたか?」「今日のこの講義を通して知りたいことは何ですか?」と聞いて生徒がそれに答える、という形式でした。

②学習・研究面でのアドバイス

先ほども言ったように、拙い英語でもいいのでガンガン質問するようにしましょう。日本では「質問する前に自分で調べて考えろ、それから質問に来い」という雰囲気があり質問することへの精神的なハードルが高い気がしますが、香港では「調べれば分かりそうなことでも質問していい」といった感じなので、自分が気になったことであれば、つまらない質問でもしてみる価値はあると思います。

あと、発表のテーマ決めに関しては絞りがなく非常に苦労しましたが、逆に言えば自由に選んでいい、ということになるので、とにかくとっつきやすいテーマを選ぶのが一番だと思います。(インタビュー前と後でテーマが変わるとは思っていませんでしたが。笑)

③語学面での苦労・アドバイス等

香港大学の学生・東京大学の学生も含めて非常に英語が得意な人が多く、授業についていくのに支障は感じなかったものの、質問をする際の流暢さなどはくらべものにならず、ちょっと辛かったです。何事も経験だと思って辛抱するようにしていました。

あと地元の人には広東語しか話ませんが、そこところはいっしょに行動してくれるグループの香港大生が何とかしてくれるので心配しなくても大丈夫です。

生活について
①宿泊先(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
プログラム参加者はみんなShun Hing Collegeという寮に泊まることになっていました。男性のプログラム参加者だけで28Fを、女性のプログラム参加者だけで11Fを貸し切り、という感じでした。 部屋は基本的には1人部屋でしたが、僕は(男の)香港大生と2人部屋でした。基本的には仲良くやれましたが、生活リズムが2時間ほどずれており何回か寝ている彼を起こしてしまったことがあり申し訳ないな—と思いました。選べるんなら1人部屋の方が無難かもしれません。 家賃は寮を建ててくれたDavid Mongさんのおかげで無料でした。ほんとに感謝してもしきれません。 シャワールームがトイレの個室の外観と同じで最初はなえましたが、次第に慣れてきました。 キッチンが階のみんなで共有でしたが、皿やフライパンが備え付けてあるということではなく、自炊せずコンビニのサンドイッチとかで空腹をまぎらわせてる、って人がほとんどって感じでした。ただし、僕は香港の料理に野菜がないのが猛烈に不満だったので、フライパンやお皿を買って(買いに行くのが結構大変だった)、野菜をゆでたりハムを焼いたりして適当な料理を作りつつ自炊していました。 (これは余談なのですが、その場においてあった調理器具を「これは今まで28Fで暮らしていた人がおいて行ってくれたんだろう」と思って使ったら、俺らの階で暮らしているはずのない寮の掃除のおばさんが現れ「%\$※? * @!!」と俺に突然ブチ切れてきました。怖くて退散しました。結局和解したのですが、なんで28Fのキッチンでわざわざご飯作るのか、あまりに不可解でした) 宿舎は駅から徒歩7分とそこそこの立地でしたが、駅から宿舎までの間が急な上り坂になってて、夏の香港の湿気もあいまって駅まで行くだけで重労働でした。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
外は非常に蒸し暑かったですが、建物の中は冷房が効きすぎていました。外に出るときは半袖一枚で十分ですが、上に羽織るものも一枚もっていっておけば安心だと思います。 大学にはお手頃な価格の食堂・カフェがあり大学での食事には困りませんでした。ただ、注文は広東語でやる必要があるのが香港大生と行動するのが無難でしょう。 地下鉄もバスもタクシーも非常に運賃が安かったです。最低賃金が安いのが影響してるのかな...(香港では約550円/時ほど)オクトパスカードを買っておくと便利です。というか買わないと改札とか入れない気がする。。。 お金は2つの財布に入れて置きました。クレジットカードも持っていましたがいきましたが、あまり使わず基本的にお金が必要なときは現金で支払っていました。10ドル札,20ドル札,50ドル札,100ドル札,500ドル札とお札の種類が多かったですが、書いてあるのでわかりにくくはないはずです。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
香港は大変治安が良かったです。 怪しげなおっちゃんたちが座り込んでるエリアがあったり、駅前で麻雀やったりしてあの人たち大丈夫なの??って思うこともありましたが、特に何もありませんでした。 海外で病院に行くとなると面倒なことになりがちなので、機内にいるときとクーラーをつけて寝るときは、喉を傷めないようマスクをして寝ていました。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空券+ホテル代(2泊) 7万円 授業料 3万円 食事代とか観光とか(買ったフライパンとか含めて) 10万円 保険など 1万円 スマホの通信料は、日本にいる間に、AmazonとかでSIMカードを買っておくと安く上がります。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
7万円(東京大学より)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

1週目と2週目の間でディズニーに行き、プログラムが終わってから大仏を見に行きました。授業の後にも夜景を見に行ったりして、毎日がすごく楽しかったです。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

香港大学の中野先生が神でしたので、授業に関しては何一つ心配はありませんでした。ただ基本的に現地の人とのやりとりは広東語でやることになるので、そこは香港大学の人に頼りっきりになります。(裏を返せば、日本人だけだとどうにもならないこともある)

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館も居心地がよく、かなりの頻度で使っていました。不満といえば、キッチンを使っていたら、掃除のおばさんに怒られたことぐらいですかね。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

プログラムの意義、参加を通じて成長したことばたくさんありましたが、自分の中でこれは大きかったなあ、と思うものを挙げさせていただきます。

まずは、香港大学の学生、また、周りにあまりにいないタイプの東大生と交流ができたことがあげられる、と思います。

このプログラムに参加していた香港大学の学生は学部はわかりませんが、日本語学科に在籍しており、英語が堪能なばかりではなく、日常生活レベルでは日本語会話も支障ありませんでした。もちろん広東語は母語だし、北京語もそれなりに操れる。まさにマルチリンガルだったわけです。非常に能力の高い彼らに触れて、僕も「もっとやれるようになるのでは？」と思うようになり触発されました。東大生の参加者でも、明確な強みを持った人が多く、いろいろと参考にさせていただきました。

次に、海外での生活に適応する、という意味でも非常に意味のあるプログラムだったな、と思います。香港は日本ほど住み心地のよい都市ではなくて、多少不便が強いられることもありましたが、そんな中どのように香港に適応し、ストレスなく生きていくか、ということを考え工夫して生きていく、のはなかなかほかのプログラムでは得られない貴重な体験ではないかな、と思いました。

最後に、英語でのコミュニケーションになれるという意味でもいいプログラムだったなあ、と思います。日本人の先生が授業をプランニングしながらも、英語の授業を聞き英語で質問し、香港の学生とごはんを一緒に食べながら英語で話し、プレゼンの準備も発表も英語で行う、と英語漬けになれる環境がこのプログラムにはありました。非常に貴重な体験をさせていただいたなあ、と思います。

すごく楽しいプログラムだったと思います。参加できて本当によかったなあ、と思います。

②参加後の予定

行ってみたいところには行けたかなあ、という感じで、もう大学のプログラムを利用して留学することはない、と思います。が、この経験を生かして将来的にはぜひ海外で働きたいな、と思っています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

去年シェフィールド大学のプログラム、今年は香港大学のプログラムに参加したのですが、2つのプログラムはいずれも楽しく、そのプログラムなりの良さがありました。

海外初心者の方・田舎も悪くないな～という方ならシェフィールド、海外経験が多少ある方・都会が好きな方なら香港に行くのがいいのかな、と思います。

その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特にないです。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form
(for programs from a week to 3 months)

Date: 12/08/2017

Faculty/Graduate School at UTokyo:	Graduate School of Engineering	Year at the time of Study Abroad	M1
Program Attended:	HKU-UTokyo Joint Summer Program	Host University:	University of Hong Kong
Occupation after graduation (intended):			
☒	1. Research		
☐	2. Specialist (Medical•Judiciary•Accountant)		
☐	3. Civil Service		
☐	4. NPO		
☐	5. Private sector (Type of industry:)		
☐	6. Entrepreneurship		
☐	7. Others ()		

Outline of the receiving institution overseas

University of Hong Kong is the leading university in Hong Kong. It was established in 1911. It features majors ranging from engineering to science to Japanese studies and public policy.

Reason why you decided to participate

I have always been interested in traveling to Hong Kong. I just came back from Beijing so I felt that I could have some basic understanding of the people in Beijing and it is commonly known that people from Hong Kong have a different thinking than people in mainland china, so I wanted to see the difference and understand it for myself. Additionally, I am a member of the global leading graduate program for social design and management, and this is one of the course requisite classes. Finally this program is only 10 days long in August so there is no conflict with classes.

Preparation for the program

(1) Application process (please give any advice on dealing with the application process)

The application process was quite straightforward. The most daunting task could be talking the essays as a part of the program. I recommend first completing all the basic parts of the application first. After you finish those basic parts, just spend about 2-3 hours working on the essay and you're done!

(2) Visa application (type of visa, where to apply, processing time, any advice on visa application)

Since this program is only 10 days long and I am a US citizen, I didn't need to prepare a visa in advance.

(3) Medical check-ups (health check-ups before departure, inoculations, etc.)

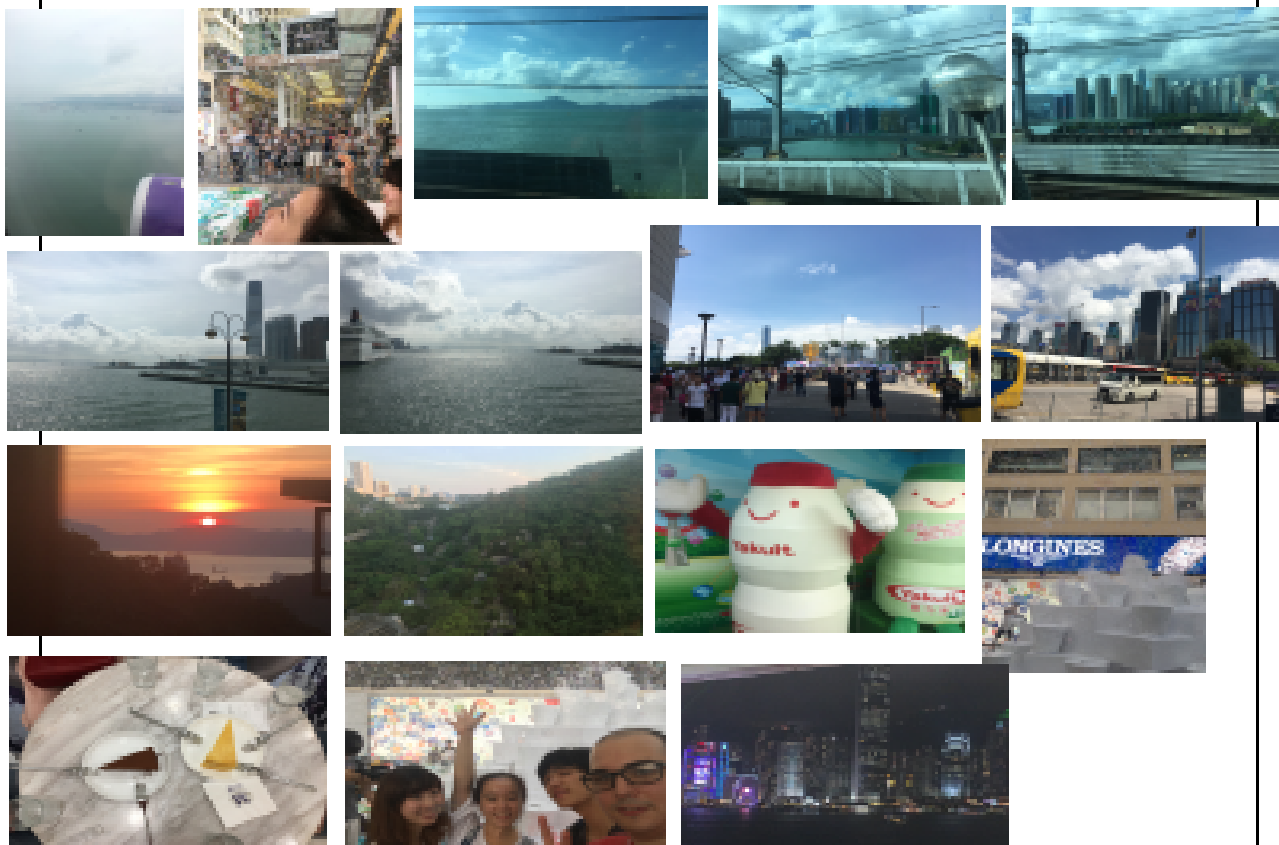
Since this program is only short term, I did not need to prepare a medical check up.

(4) Insurance (information about insurance for travel/studying abroad purchased)
The insurance process is rather straightforward. First fill in the "Notification of Going Abroad" and The University of Tokyo will prepare your insurance process. In about two weeks your bill for the insurance will come and you are done. However, it does take two weeks for the insurance bill to come, so please complete the "Notification of Going Abroad" as soon as possible!
(5) Procedures required by your Faculty/Graduate School (any information about course registration, credits, exams, submission of dissertations etc)
Since this class is offered by The University of Tokyo directly and there is no need for me to transfer any credit, I simply needed to fill a form of leaving the country and then come back.
(6) Language preparation (language level before the program, lessons etc.)
The program was primarily conducted in English and most residents in Hong Kong know English so there was no need to learn Cantonese at all. Although for the company tours, some company executives spoke only in Japanese so a reasonable skill of Japanese is highly recommended. Additionally most of the University of Hong Kong students wanted to speak exclusively in Japanese for their practice so that is something to expect.
(7) Items which should be taken with you from Japan and any other advice on things which should be done before leaving Japan.
Well the dorm is located on a big hill and Hong Kong is very hot and humid so it highly recommend you bring comfortable clothing. Additionally, it is recommended that you bring a suit for some of the company event and for the final presentation.
Information on the academic/research program
(1) Outline of the program (Style of the lessons/preparation study/review study, thing which left an impression on you, etc.)
The program was organized fairly the same for the first few days. First you wake up early and go to University of Hong Kong, you meet the professors and they overview what will happen today and who you will meet, and the review what happened yesterday and who met yesterday. Both Professor Sonoda and Professor Nakano do give a presentation, and other professors in University of Hong Kong will also give a presentation. After the presentation, usually the students will grab lunch (usually in their own groups) and then after lunch go to meet the companies and listen to their presentations.
(2) Advice on aspects of academic/research work
It is recommended you always read the reading material provided by Professor Sonoda and Professor Nakano; they give a basic background of the company and people that you will meet. Additionally, please take notes in every presentation and try to ask questions.
(3) Problems experienced with language issues, advice concerning language, etc.
There were no real problems with language with communicating in Hong Kong, and all the presentations by Professors in The University of Tokyo and The University of Hong Kong are conducted in English. The only problem I had with language communication was for some of the company interviews, which were conducted in Japanese. Additionally, it seems that most of The University of Hong Kong students wants to speak in Japanese. They know English and can often repeat what they said in English but it is recommended to have a fair understanding of Japanese before joining this program.

Aspects of life
(1) Accommodation (Type (home-stay, room-sharing etc.), cost, atmosphere/appearance of accommodation, how you found it, etc.)
The dormitory was great! It was rather spacious and had an air conditioner, desk and western bed. The toilets and showers are all shared with your floor and they are each private. There is a lounge in each floor where you can discuss with other people in your floor, cook, grab water, use the refrigerator, or watch tv. I thought it was rather comfortable and had a sense of community.
(2) Living environment (such as climate, environment around the institution, transport facilities, food, managing your money (overseas money transfer, credit cards))
The climate is very hot and humid. The food is rather diverse. You can buy Japanese food, Shanghai food, Hong Kong food, Western Food, and almost any kind of food. Hong Kong has a very diverse amount of products from all over the world. If you miss food from your Japan or from your hometown, you can find it in Hong Kong. You can give find food that you didn't know existed in your home country. Generally, the cost of food is cheaper than Japan but some more internationally branded food can quickly be the same price as the price in Japan.
(3) Aspects of risk and safety management (safety of local region, condition of medical facilities, any action taken in maintaining your mental and physical health, etc.)
I felt the local region is quite safe. I never felt unsafe in Hong Kong. Although, I was told it is not really safe to drink the water in Hong Kong, so I advise you not to drink water in Hong Kong.
(4) Details of expenses (breakdown of costs, such as airfare, program fees, cost of required books, rent, food, travel cost, money spent on entertainment)
I spend about 30,000 Yen for the program fee, 30,000 Yen for the round-trip ticket, about 6,000 yen for insurance, and about 40,000 Yen for food and daily expenses for the ten days.
(5) Financial aid (if you were receiving financial aid/scholarships, please give the name of the source of the aid, amount, and how you found it, etc.)
Everyone is awarded 70,000 Yen in scholarship. This scholarship covers most of your expenses in the program so I highly recommended joining this program. The dormitory and basic transportation from the dorm to the university and company is free, so it is easy to not spend too much money.
(6) Activities other than academic/research work (sports, cultural, volunteer/internship, weekend activities, etc.)
Outside of the program, members of this program often just explored around Hong Kong. Basically everyday it was fun figuring out where to around Hong Kong for dinner. There is one Sunday without any formal plans so most groups go out and have some fun such as going moutain climbing or going to disney land.

Environment of the receiving institution
(1) Support facilities for students taking part in the program (such as language, academic, living support mechanism and counseling services)
Basically everyone spoke English in this program so there was really no need for support in language. For parts of the program conducted in Japanese, I could ask my Japanese group members to explain these parts. Although there wasn't really any formal support for Japanese language translation. In terms of academic support, Professor Sonoda and Professor Nakano were always around to answer questions and help us with the topic for our final presentation and gave us resources. Professor Sonoda was also living in our dorm with us so it was really convenient to ask for his help if needed. There was staff at the dorm who would be around if you needed help with dorm issues such as forgetting your key in your room. In terms of other facilities, we had access to the library, University of Hong Kong, and internet without any restriction.
(2) Facilities (libraries, sports facilities, cafeteria, IT equipment and facilities, etc.)
The library was quite nice and a lot of study spaces. There were also study rooms that could be reserved so group members could work together there. There were a few different places in campus to eat. The university provided many different kind of diverse food from Mainland China, Hong Kong, Japan, and other countries, and the food was pretty good. The prices were also reasonable.
Looking back over the program
(1) The significance of the program and how you have developed by taking part in it, any other impression from having studied abroad
This program provided a unique opportunity for students from The University of Tokyo to come and interact with the students from The University of Hong Kong. It gave us the ability to take a first glance of Hong Kong, and the people of Hong Kong. After this program, I felt that I could learn more about the people of Hong Kong and see the similarities and difference between Hong Kong and Japan. This was also a perfect compliment to my trip to Beijing because I came to see China from a different perspective.
(2) Your plans having studied abroad
I plan to finish my masters and likely complete my Ph.D in Japan. I really enjoyed my time in Hong Kong, and I will definitely come again for vacation.
(3) Any messages or advice for future participants
The program provides a unique opportunity to go to Hong Kong and learn about Japan in Hong Kong, about the Hong Kong people, about how it is like to live in Hong Kong as Japanese, and the opportunities available for anyone wanting to go to Hong Kong. Additionally there are numerous company meetings, which gives you the ability to network and learn about the different Japanese companies in Hong Kong. This program offers all this for basically free, while classes have basically all finished, and can offer you 2 credits! I can't see any reason not to join this program! I highly recommend this program to anyone interested in going to Hong Kong.
Miscellaneous
(1) Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas
dropbox.com and facebook.com are basically essential since all the resources and announcements are posted on these sites. I recommend the paper "Consumption, Popular Culture, and Cultural Identity: Japan in Post-colonial Hong Kong" by Annie Hau-nung Chan, for information about Japanese presence in Hong Kong. It personally helped me better understand the mindset of the Hong King people.

(2) Please submit any photographs which may be used on the University of Tokyo websites or publications.



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 8月 15日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学系研究科	学年(プログラム開始時):	修士2
参加プログラム:	HKU	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
☒	5. 民間企業(業界: 医療機器メーカー)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港大学

参加した動機

卒後、外資系企業で働くことも鑑み、今後重要度を増していくアジアでのビジネスにおける、中国及び香港の立ち位置等を学ぶため

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

航空券はオリエンテーション前にとっておいた方が良いと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特になし

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

常備薬として、パブロン、胃腸薬、ロキソニン、酔い止め等を用意。しかし最も役に立ったのは顆粒タイプのユンケル。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

学校指定のモノのみ

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

指定の提出書類以外に、専攻への出国届

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
中国語を簡単にでも学んでおけば、話のタネになってよかった。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
課題に関しては事前準備でできることにも限りがあるので、あまり神経質になりすぎなくてもよいと思われる。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
事前資料がかなり重い。ざっと読む程度が現実的かもしれない。滞在中は授業後はグループ活動があるので予習にさく体力と時間は作りづらい。 授業内容はどれも興味深かったというのが素直な感想で。内容は勿論の事、ほかの学生達のプログラムへの姿勢や質問内容から同じものを前にして違うことを感じていることが分かったことも、個人的には刺激になった上印象深かった。
②学習・研究面でのアドバイス
インタビュー先は、事前に必ずしも自分たちで手配しなくても、現地で先生方等を通して紹介して頂くこともできます。そしてグループでのインタビューの報告会から一歩先に行くためには、ユニークな仮説を作ることが重要かもしれません。
③語学面での苦労・アドバイス等
恋バナとキャリア論は世界共通なので、打ち解けるための自己開示として大いに有効。面白い話たくさん聞けると思います。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
Shun Hing College
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
湿気がひどい。一日中汗をかいていたような気がする。交通機関はMTR(地下鉄)で事足りる。オクトパスカードを使いましょう。出国する前のRefundを忘れずに
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
普通にプログラムを過ごすうえでは治安はとても良かったと思う。冷房による風邪だけには注意されたし
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
交通費8万(JAL)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
プログラム推奨の奨学金を受給、約7万
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
香港ディズニーランド
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
厚いサポートのおかげで特段困ることはなかった。ありがたい。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
あらゆる施設は東大より遥かに充実している上に、デザインが洗練されていて美しかった。特に図書館
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
クリエイティブとは何か。世界の最前線で戦っているビジネスマンやグループワークを通じて、垣間見えたと思う。 またこのプログラムに参加しようと思うような刺激的な人たちと触れ合えたことは、つつい楽な方に流れてしまいがちな日常への視野を広げてくれたように感じた。
②参加後の予定
修論制作
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
自身のユニークなバックグラウンドやスタイルを、全力で押し出してみてください。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年8月18日

東京大学での所属学部・研究科等:	文学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	香港大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
✓	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港大学。中心地から5駅ほど離れた場所に位置。今回お世話になった文学院日本研究科を中心とする生徒の方々は、日本語にも長けていた。また、大学構内や施設が非常に新しくきれいだった。

参加した動機

最大の理由は経済の中心地として動く都市を目の当たりにしたかったこと。また、英語のスピーキング能力を高めたいとも考えていた。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

情報収集をまめにして早めに動くこと。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特になし

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

国際本部から義務付けられる付帯海学に加入

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
IELTS6.5程度。スピーキング力が極端に低かったので、英語での議論になった時は苦勞した。HKUの生徒は非常に英語力が高いので、最低でも自分の意見を1〜2文で伝えられるくらいの英語力は必要だったと痛感した。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
変換プラグなど電子機器関連は必須。洗濯用品やアメニティも必要だが現地調達が可能。特別な注意はいらないが、冷房が効いているので厚手の上着、またシャワー後や夜のミーティングで履くビーチサンダルがあると便利。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
事前にアップロードされる資料(多くが英語論文)を読み、レクチャーを受ける。レクチャーは香港ビジネスの鍵を握るVIPが英語でしてくださるもの(日本語のレクチャーもあり)。ビジネス一つを切り取っても、国際関係・経営方針・現地へのアダプト方法など様々なアプローチのお話があり面白かった。最後の2日間は班ごとのフィールドワークとなり、発表テーマに沿ったインタビューなどを行った。
②学習・研究面でのアドバイス
語学に力を入れるべきこと以外の注意はないと思う。最終日のプレゼンがパワーポイントなので、効果的な資料作りのコツ(論文の探し方やグラフの使い方など)を知っている人が班にいと助けられる。
③語学面での苦勞・アドバイス等
レクチャーを理解するためのリスニング力はもちろん、質問や主張をするためのスピーキング力が重要。HKUの方々の日本語能力が高く、班ごとのミーティングや寮の会話では日本語を使用したため、日常生活で困ることはなかった。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学の寮。部屋はとても綺麗で快適だった。Wi-Fiもつながる。女性用はシャワー室が少し狭くも感じたが、寮の施設に不便な点はないと思う。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
非常に湿度が高く髪が傷みやすい。ご飯は毎食大学周辺の美味しいお店にHKUの生徒が案内してくれた。交通は全て地下鉄を使い、オクトパスカードで乗った。お金は現地の空港とHKUの生徒の間とで二回両替し、全て現金で管理した。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安や医療事情は良いので安心できる。まれに衛生状態が悪く、出された水があまりきれいでない場合もあるためペットボトル飲料があると便利。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
支払ったのはプログラム費用・航空費・保険料・現地での生活と観光費で、総額10万円ほど。実際に現地で使ったのは3万円強。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
自分で見つけたものは受給していない。プログラムにはJASSOが付帯している。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
休日にディズニーランドをはじめとする観光をした。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
園田先生・中野先生がプレゼンのために必要なアドバイスや人脈の確保を丁寧にしてくださったので、非常に助かった。プレゼンのためのサポート体制は強いと思う。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館とミーティングルームが使用可能で、快適に使用できる。食堂は少し混むが環境は良い。大学はどこでもWi-Fiが繋がる。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
学年や専門の異なる生徒が行動を共にし、一つの課題に取り組むという経験が純粋に楽しかった。皆英語力やアイデア出しの能力が高く、刺激を受けた。また、HKUの生徒は広東語・英語・日本語が堪能なことに加えて日本の政治経済事情にも詳しく、自分がそうした分野の知識を増やすモチベーションにつながった。レクチャーやインタビューでもこうした機会がないと交流不可能な超一流の方ばかりとお会いし、どのようなビジョンを持って就職するべきかを考えさせられた。素敵な友人に恵まれたことも幸せに思う。
②参加後の予定
英会話力を高める努力をしたい。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
レクチャーでも日常会話でも、多くの刺激的な考えに出会うことができます。学生のうちにこうしたサポートの中で学べる機会はとても貴重です。少しでも興味があればぜひ！
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form
(for programs from a week to 3 months)

Date: 08/21/2017

Faculty/Graduate School at UTokyo:	Graduate School of Public Policy	Year at the time of Study Abroad	Pr1
Program Attended:	HKU-UTokyo Joint Summer Program	Host University:	University of Hong Kong
Occupation after graduation (intended):			
☐	1. Research		
☐	2. Specialist (Medical • Judiciary • Accountant)		
☒	3. Civil Service		
☐	4. NPO		
☒	5. Private sector (Type of industry:)		
☐	6. Entrepreneurship		
☐	7. Others ()		

Outline of the receiving institution overseas

The University of Hong Kong was founded in 1911 and is the oldest tertiary institution in Hong Kong. It is ranked as one of the best institutions in Asia.

Reason why you decided to participate

Interest in Japan-Hong Kong relations; general interest in Hong Kong politics and culture; interest in employment in Hong Kong in the future

Preparation for the program

(1) Application process (please give any advice on dealing with the application process)

(2) Visa application (type of visa, where to apply, processing time, any advice on visa application)

If you hold a Japanese passport, you do not need to apply for a visa in Hong Kong if the duration of your stay is less than 3 months. Since the summer program is only for two weeks maximum, no visa was necessary. If you hold a passport from another country, it is advised that you check whether you need a visa to enter Hong Kong.

(3) Medical check-ups (health check-ups before departure, inoculations, etc.)

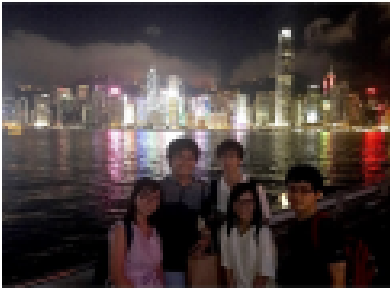
No medical check-up was required prior to departure, but if you are worried about contracting influenza or other infections, you may want to visit a clinic for vaccinations before you depart from Japan.

(4) Insurance (information about insurance for travel/studying abroad purchased)
The University of Tokyo requires all students participating in study abroad programs to apply for overseas travel insurance. The steps for applying to the insurance are outlined in the documents that students received once they are accepted to the program. It is advisable that students apply as soon as possible so that they can receive their insurance certificate before departure.
(5) Procedures required by your Faculty/Graduate School (any information about course registration, credits, exams, submission of dissertations etc)
Different faculties may have different requirements from their students. In the case for the Graduate School of Public Policy, we are required to submit a Request for Study Abroad to the Dean before departure. If a student would like to transfer credits from the program to their faculty, they should consult with the office of their faculty.
(6) Language preparation (language level before the program, lessons etc.)
In general, the main language used in most study abroad/summer programs is English so students who are planning to participate in such programs should make sure that they meet the expected language skills. Students who are not fluent in English shouldn't be discouraged from applying, but view it as a chance to improve their speaking and listening abilities.
(7) Items which should be taken with you from Japan and any other advice on things which should be done before leaving Japan.
Necessities include your passport, important personal belongings (i.e. mobile phone, wallet, medications), insurance certificate, and visa if necessary. It might also be a good idea to convert your money into the local currency of your destination before you arrive. For the case of Hong Kong, they have a different voltage and electric plug so keep that in mind as you bring electronics such as hair dryers, shavers, etc. If you get easily sick, you should also bring your own over-the counter medicine.
Information on the academic/research program
(1) Outline of the program (Style of the lessons/preparation study/review study, thing which left an impression on you, etc.)
The program consisted mostly of lectures and site visits to different organizations and companies. Students were expected to complete the readings and/or do resesarch before the sessions in order to contribute to discussions. At the end of the program, students were required to give a 15-minute presentation in groups on the theme of the program.
(2) Advice on aspects of academic/research work
Doing the readings or researching on the speaker or organization/company beforehand will help you be able to contribute to discussions.
(3) Problems experienced with language issues, advice concerning language, etc.
As the program was mostly conducted in English, I had very little problems with language barriers. Some of the sessions were conducted in Japanese, which were a bit difficult sometimes to follow. Some areas in Hong Kong such as the local areas, people mainly speak in Cantonese, but most people can speak basic English. During such times, I received assistance from the local students.

Aspects of life
(1) Accommodation (Type (home-stay, room-sharing etc.), cost, atmosphere/appearance of accommodation, how you found it, etc.)
We were given free accomodation at one of the colleges in the University of Hong Kong. The accomodation was a student dorm and two students of the same sex were assigned to a room unless other prior arrangements were made for a single room. The dorm was relatively clean and nearby the downtown area. The path from the nearest station to the accomodation is very hilly with steep slopes so students may consider sharing a taxi to arrive there with their luggages.
(2) Living environment (such as climate, environment around the institution, transport facilities, food, managing your money (overseas money transfer, credit cards))
Hong Kong is very humid and hot during the summer so students planning to attend summer programs there should make sure to stay hydrated throughout the day. Pack light, breatheable fabrics such as cotton and bring sun block to protect yourself from getting sunburn. However, it is also advised to bring a jacket since air conditioning indoors is very strong. The city is fairly safe though it is always advisable to be aware of your surroundings. Transportation is convenient and the main modes are via MTR (subway), buses, taxis, and minibuses.
(3) Aspects of risk and safety management (safety of local region, condition of medical facilities, any action taken in maintaining your mental and physical health, etc.)

(4) Details of expenses (breakdown of costs, such as airfare, program fees, cost of required books, rent, food, travel cost, money spent on entertainment)
Airfare: 20,000~30,000 yen (Hong Kong Express); Program fee: 30,000 yen; Accomodation: free; Food expenses: varies depending on the type of restaurants; Travel expenses: around 200 HKD
(5) Financial aid (if you were receiving financial aid/scholarships, please give the name of the source of the aid, amount, and how you found it, etc.)
Received a 70,000 yen scholarship from The University of Tokyo
(6) Activities other than academic/research work (sports, cultural, volunteer/internship, weekend activities, etc.)
Students were allowed to have free time to explore the city after the end of the sessions and during the weekend.
Environment of the receiving institution
(1) Support facilities for students taking part in the program (such as language, academic, living support mechanism and counseling services)

(2) Facilities (libraries, sports facilities, cafeteria, IT equipment and facilities, etc.)
The facilities at the University of Hong Kong are very modern and up to date. We made use of the library and common rooms which were made available to us during our stay in Hong Kong.

Looking back over the program	
(1) The significance of the program and how you have developed by taking part in it, any other impression from having studied abroad	
The program has helped me gain a deeper understanding of Japan's business relations with Hong Kong and the different opportunities and challenges that Japanese corporations face in the Hong Kong market.	
(2) Your plans having studied abroad	
I am currently studying abroad in Singapore for one year. After I graduate, I plan to find a job either in Singapore or Hong Kong.	
(3) Any messages or advice for future participants	
If you are considering working or studying abroad, this program is a good chance to experience being in a different country and working with people of different backgrounds.	
Miscellaneous	
(1) Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas	
N/A	
(2) Please submit any photographs which may be used on the University of Tokyo websites or publications.	
   	

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 8月 23日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	香港大学-東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
✓	5. 民間企業(業界:コンサルティング)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港最古の大学で、世界ランキングのトップ50に名を連ねる有名大学。香港島の西部に位置し、高台にキャンパスがそびえたつ。

参加した動機

将来漠然と海外で働きたいと考えており、自分のキャリアを考えるうえで経験になると思い参加した。また、今後、香港が国際都市としてどのように発展していくかということに興味があった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

合格通知が来るのが遅めであり、航空券をできるだけ安く抑えるためには、合格通知が出た後すぐに航空券をとるのが良い。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

短期間の滞在であり、滞在ビザや就学ビザは不要。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学の海外付帯留学保険に加入した。(加入必須だった。)

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

進学選択の期間と被っていたため、主にその点について説明を受けた。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
IELTS 7.0 語学面において特に準備はしなかった。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
Wi-Fiルータを持参した方がいいと感じた。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
テーマとしては「Japan in Hong Kong: Challenges for the Future」で行われ、香港のビジネス的側面と、政治的文化側面の両方から講義が行われた。 大学の教室で教授などからお話を伺う形式、企業を訪問しビジネスパーソンから聞く形式、工場などの見学の3つの形式で行われた。言語は基本的に英語で行われた。講義や講演などでは、積極的に発言や質問することが求められた。 全体を通して印象に残っているのは香港がビジネス環境が非常にいいことである。法人税が安く、自由港であるため、輸出入が行いやすい。また、巨大市場である中国に接しながらも、自由が保たれている点が、香港をビジネスの場としてより魅力的にしている。
②学習・研究面でのアドバイス
香港について文献などで勉強して行っておくと、もう少し深い理解ができたのではないと思う。
③語学面での苦労・アドバイス等
フィールドワークのグループでは香港大の学生が日本語が流暢だったため、基本的に日本語を使用した。班によっては英語。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
Shung Hing College (2人1室)
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
外は非常に蒸し暑い、室内が冷房が過剰で、上着が必要。電車やバスに乗るのに、オクトパスカードが便利。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は日本と変わらないぐらいに良い。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
現地でトータルで4万円程度使用した。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSO、7万円、案内要綱に記載。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
週末は、山に登るなど、自由に余暇を過ごした。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
問題なし。生活面で、寮を寄付で借りれたのは大きかった。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
食堂が非常に多く、食事には困らない。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
香港大学の学生が日本語が流暢で、フィールドワークが日本語で行えたという点は、少し予想外で期待外れだったが、それ以外の点で予想外の収穫が大きかった。チームが非常にダイバーシティのあるグループ(そうなるように割り振られていた)で、学年や専攻が違っていた。その中でのコミュニケーションを図ることの難しさである。自分は普段はハイコンテキストな集団の中でコミュニケーションしているだけだと、このように他人に自分の考えていることを伝えるのが難しいのだと感じた。また、日本の食関連産業の香港への進出動向を知れた。自分の中では香港は基本的には金融都市というイメージで、近年香港にたくさん外食産業が進出しているのが意外だった。そして、優秀な人たちと人脈を築けたこと。前述のとおり、多様な学生が参加しているため、いろんなバックグラウンドを持った人々と知り合えたのは大きな収穫である。
②参加後の予定
非常にいい経験になったと思っており、今後何らかの海外プログラムに応募したい。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
参加をお勧めします。普段では絶対に話を聞けないような方々からたくさんお話を聞ける貴重な機会です。奨学金も出ており、負担が少なく、得るものが大きいプログラムだと思います。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
なし。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 8月 13日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:	香港大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☐	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計)
☐	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☒	5. 民間企業(業界:)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣先大学の概要

1911年創立。各界に著名な人材を輩出し続ける、東アジア屈指の名門大学。授業は基本的に英語で行われている。

参加した動機

香港という地域に深い興味があった。
 経済面では、曲がり角に差し掛かっている。中国大陸のプレゼンスが拡大する中、香港に拠点を置く日本企業は、大陸ではなく香港で何を行っているのか。香港に何を期待しているのか。現地での企業訪問を通してそれを知りたいと思った。
 文化面でも独自性を発揮している。多様かつ豊富な芸術作品を生み続けることができる文化的背景には何があるのだろうか。それを現地で、自分の肌で感じ取りたかった。
 政治面では、「雨傘運動」に見られるように、若者の政治意識の高まりが顕著のように見えた。ただ、日本のメディアから得る情報から判断する限り、現状では、真の普通選挙実現への道のりは、必ずしも明るいとはいえない。書店員の失踪事件のように、自由も制限される一方のように見える。次代の香港を担う学生は、政治、ひいては香港の行末について本音ではどう思っているのだろうか。その点を、香港大学生との忌憚のない議論を通して、少しでも知りたいと思った。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

アプリケーションフォームをしっかりと書くことで、何故自分がそのプログラムに参加したいのか、そのプログラムを通して何を得たいのかが明確にできると思う。国際本部主催のサマープログラムに関して言うと、北京大学、香港大学、ソウル大学校、シェフィールド大学、インドネシア大学との間でプログラムが用意されている。アプリケーションフォームには第三志望まで記入することができるが、自分は香港大学とのプログラムに志望を絞り、香港に対する関心・興味・愛情を書き連ねた。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本のパスポートがあれば、ビザは必要ない。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特に何もしてない。食事が美味しいので食べ過ぎてしまうかもしれないと思ったため、胃腸薬は持参した。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
国際本部を通して、付帯の海外保険に加入した。クレジットカードの保険も保持していた。
⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
特に行っていない。サインをもらった程度のものである。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
特別に何かをしたという訳ではないが、英語を使う機会が多そうであると思ったので、NHKの語学講座を活用するなどして、英語に意識的に触れるようにした。広東語については、唔該・唔該晒くらいしか知らない状態で香港に行った。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
タイガーバームを始めとして向こうで薬が買えるとはいえ、常備薬は持参するに越したことは無い。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
前半戦は、レクチャー中心。在香港の日本大使・総領事の方や著名なジャーナリストを招いてお話を伺ったり、三井物産や日本航空、HKTDCCを訪問してレクチャーをしていただいた。普通だったらお話を聞けないような方にお話しをしてもらった。これだけでも3万円の参加費がペイするのではと思える程だった。後半戦は、最終日に行くプレゼンテーションのための準備をグループごとに行う。各自のグループのテーマに即して、企業訪問をしたり徹夜でスライドをの作成・本番のリハーサルをする感じである。最終日のプレゼンテーションには高名な方々が集まると聞かされていたので、否が応でも完成への意識が高まる。なかなか体力的にハードになってくる。
②学習・研究面でのアドバイス
今考えれば信じられないような方々のレクチャーを受けていた。滅多にお目にかかる機会はない。積極的に質問するとよい。
③語学面での苦労・アドバイス等
自分の英語力では全く話にならなかった。HKUの学生の日本語力におんぶにだっこ、という感じであった。英語を進んで話そうという積極性こそ身につけなければならないと思った。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
Shun Hing Collegeに無料で宿泊させてもらえる。ただでさえホテル代の高い香港にあって宿泊先を提供してもらえるのは、本当にありがたい。部屋には机・クローゼットがあり、冷房完備。簡潔ではあるが、快適。ただ、ホテルではないので、生活に必要なものはすべて持って行くことになる。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカードなど))
湿度が高い。洗濯物が乾かない。Shun Hing Collegeは港島線の駅まで徒歩7分ほど。駅の近くには飲食店やスーパーが集中しており、便利。現地で3万円を両替し生活費に充当した。重慶ビルの奥の方の両替店のレートが良いと聞いた。ATMを使ったクレジットカードのキャッシングも便利。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安が悪いという話は聞いたことが無い。一人で外出して夜食を探しに行くこともしばしばあった。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空券が5.5万。もっと安いものもあった。参加費3万。simカードが2週間で100ドル。空港MRTが往復で200ドル。食費は決して安くはない。茶餐廳、麺・粥の専門店、大学の食堂、飲茶の店で済ませるとして1日150~180ドルが標準的な額になる。限界に挑戦するならば、パン、カップ麺、スーパー・コンビニの弁当に頼ることになる。それでも1日50ドル程度。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
参加者には一律7万円支給。ありがたい。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
自由な時間もかなりある。レクチャーは基本的に夕方には終わるので、夜は香港の街に繰り出して食事をすることになる。楽しい。九龍半島側から眺める香港島の夜景は最高である。休日もある。ディズニーランドに一日遊びに行っていた人もいたようだ。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
参加したHKUの学生は皆日本語が堪能である。コミュニケーションが全く取れないということにはならないはずだ。今年は、プログラム主催の園田教授に2週間フルアテンドして頂いた。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
HKUの図書館を利用させてもらえる。駒場の図書館と比較すると悲しくなってくるほどだ。食堂はリーズナブル。食費を削る大きな味方になってくれる。

プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感 実際に香港を訪れる前は、中国からの圧力が強まる中で、香港の輝きは失われ、国際的なハブ都市という地位から転落するのではないかと勝手に思い込んでいた。しかし、そうではなさそうだった。やはり大陸とは違う。訪れてみて強くそう実感した。英語が通じる、5時間以内で全世界の人口の半分のマーケットにアクセス可能であるというのも強みであるし、何より今までの歴史の積み重ねが大きい。長い時間の中で構築された透明度の高い金融システム、自由な経済システムは大陸には真似できないものであるはずだ。それを壊すよりも、活用した方が利益になると思っているのは他ならぬ北京なのではないか。向こう10年は大丈夫。2047年以降も現状の制度が維持されるのではないかと。そんなポジティブな声が香港在住の日本人ビジネスマンからは聞こえた。もちろん政治的な問題は多々抱えている。西九龍駅への中国高速鉄道延伸計画についてHKUの学生に聞いてみたが、意見は真っ二つに割れていた。政治的な問題については今後も注視したい。
②参加後の予定 広東語が分かればもっと香港に対する理解が深まるような気がした。広東語もかじりたい。エネルギッシュな街、路上にまで張り出す看板、飛び交う広東語、無駄に速いMRTのエスカレーター、無愛想ながらもミスが無く迅速な茶餐廳のサービス…。実際に訪れて香港に対する愛着が深まったように思える。今後も香港を優しい目線で見守り続けたい。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス これだけ楽しめて奨学金までいただけるのだから、はっきり言って美味しいだけのプログラムである。きっと後悔しないはずである。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物 香港 中国と向き合う自由都市（岩波新書） 倉田 徹、張 競賢、香港を知るための60章（エリア・スタディーズ142） 吉川 雅之、香港 返還20年の相克 遊川 和郎
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 8月 13日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:	香港大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☒	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☐	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☒	5. 民間企業(業界: 未定)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港で最も優秀とされる総合大学。日本研究を行っている学部があり、香港大学側の参加者はその学部出身の学生が多かった。

参加した動機

まずは海外に出て、自分と同じような年の学生がどのような考えを持っていて何をしているのかを知りたかったから。また、理系の学生にとって少し学ぶ機会の少ないビジネスや経済について、その中心地である香港で学ぼうと思ったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

一年生にとってはプログラム自体の存在を知るのが難しい。まずは情報を自分で集めることが肝心。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは必要なかった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特にしていない。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学に指定されたものに入った。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等)に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
TOEFL99を持っていた。特別にこのプログラムのために英語を勉強するようなことはしていない。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
現地の学生に日本のお土産とかをもっていくと良いだろう。本当にいろいろお世話になった。また、現地の経済や地理、歴史についての基礎知識を持っておくと、得られるものがより多くなるだろう。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
レクチャーが中心。香港に進出している日系企業のマネージャーレベルの方からそれぞれの視点から見た香港経済の現状とこれからについて講演いただいた。一部事前に読んでおかなければならない事前課題があった。また、最後にはフィールドワークとして2日間自由に使える日が設定されていて、最終日のプレゼンに向けて、インタビューをしたり発表用のスライドを作ったりした。
②学習・研究面でのアドバイス
東京大学や香港大学からは様々な専門分野の学生が来ているので、非常に刺激を受けられるだろう。学部生にとっては普段絶対会えないような修士の学生にまで会って一緒に活動することができる。こういった参加者たちを前にしても積極的に議論に参加することが大事だろう。
③語学面での苦労・アドバイス等
やはり参加者の英語レベルは高い。海外に住んでいた人も珍しくない。英語力が足りていないことはしょうがないので言いたいことを簡潔にまとめることが必要だろう。それとともに、粘り強く伝えようとする根気が必要である。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学の寮にとまった。香港大学の学生と2人部屋だった。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
かなり蒸し暑い。半袖でも、日中は少し外を歩いただけで汗が止まらなくなる。大学周辺は坂が多くて歩くと大変。地下鉄に直結している。食事は3食外食をしていたが、香港大学の学生に案内してもらった。お金はすべて現金でもっていった。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
一人で出歩かないようにした。常に現地の学生と行動していたため、治安の悪い地域に行くようなことはなかった。けがや病気等にはかからなかった。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空費5万円ほど。プログラム代3万円。現地で使用した額は3万5千円ほど(ほとんどが食費・交通費)。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
受給していない。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
週末は、繁華街へ行って、食べ歩きなどの観光をした。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
サポート体制自体は特になかった。ただ、プログラムがすべて組まれていたため、特に不便に感じることはなかった。TAの方が一人いたため、なんでも彼に相談することができた。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
食堂しか利用していない。バラエティが豊富でよかった。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
プログラム中にいろいろな刺激を受けることができた。まずは、グローバルシティでのビジネスが実際にどのような動いているのかを実感することができた。また、普段であればなかなかお話を聞くことができないような方々から興味深いレクチャーをしていただいた。これも大きな経験となった。また、東大香港大両方から、多種多様な学年、専門分野の学生が参加して、一緒にグループワークを行ったりしたことは、異なる考え方に触れることができたので、非常に刺激になった。将来の自分の進路を決めるきっかけになったと思う。
②参加後の予定
まずは英語を勉強しようと思う。英語能力の試験での点数を伸ばして、海外大学へ長期留学をしたい。また、香港大学側からの参加者の一部は日本に留学に来るので、彼らとの関係もこれからも大事にしていきたい。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
夏休みの時間は限られているので、よく考えて参加を決めた方が良い。ただ、海外に行って現地の人と交流をするという体験はそれだけで価値があるから、少しでも迷ったらぜひ参加を検討してほしい。

その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。
特になし。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 8月 22日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	HKU-Utokyo Joint Program	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☐	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☐	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☒	5. 民間企業(業界:)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港大学。香港島西部に位置し、香港最古の大学である。1887年設立の香港医科大学を前身とし、1911年に大学として認可された。

参加した動機

・経済学部のゼミで、国際経営の戦略論を学んでおり、香港における日本企業の経営について関心があり、このプログラムに参加した。特に、現地人材の文化の理解や日本文化を理解してもらうことの苦労について知りたいと考えていた。
 ・香港はアジアのハブの一つであり、将来キャリアの中でかかわることもあると考えられる。そのような国の文化とビジネスを学生の間に自ら体験したいと考えた。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

経済学部国際交流課に必要書類を提出。このとき、web提出と窓口提出の両方が必要だった。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特に手続きはしていない。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特別な予防接種等は必要なし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学から推奨された海外付帯留学の保険に加入。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等)に関して)

履修に関しては、合格時点で自動的に反映される。プログラム後、プログラム及びGLPの責任者に報告書を提出する。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
参加する香港大学の学生は基本的に日本語が流暢に話せるが、講義や議論、発表は英語で行われることも多いため、議論できる程度の英語力が必要。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
コンセントの変換機、ポケットWi-Fiなどその他一般的な海外渡航に必要なもの。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
プログラムは、講義とオフィス・工場見学、学生発表で構成される。また、東京大学のOB・OG会である淡青会との会食もある。学生発表に関してはフィールドワークの日程が用意されており、事前に取材のアポをとって班で自由に活動することができる。短い期間の中でも、日本の企業や機関の方々が対応してくださり、貴重な時間の中で質疑応答をしてくださったことが印象的だった。
②学習・研究面でのアドバイス
事前に香港のビジネス環境について学んでおくと、より充実した学習ができる。プログラム開始後、班別にテーマを決定するが、その時点で自分自身が興味のある分野があるとスムーズに決定できる。
③語学面での苦労・アドバイス等
議論できるレベルの英語力が求められる。経済の専門用語の知識は必要ないが、議論ができないと苦労するケースも見られた。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
香港大学の寮。女性は基本的にダブルルームで、香港大学の学生とルームメイトになる。シャワー・トイレ・キッチン共有である。洗濯機・乾燥機は有料だが使用可能。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
外は蒸し暑いものの、建物の中は冷房で寒いことが多々ある。交通機関はMTRがあり、オクトパスカード(日本でいうスイカ)を初日に購入してチャージしながら使う。オクトパスカードはコンビニやスタバ等でも利用できるため、非常に使い勝手が良い。寮、大学ともに食事する場所には困らない。クレジットカードを持っていれば、2週間で現金3万円程度あれば十分である。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安はよく、危険を感じない。香港大学のクリニックが利用できるため、医療機関も近くにある。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空費54,350円、プログラム費用30,000円、家賃なし、交通費は一日約10ドル程度、食費は朝昼15ドル夜25ドル程度
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
GLPより80,000円の支給。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
香港大学の学生との交流。香港ディズニーランド等への観光。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
語学面(現地の中国語)、生活面等でのサポートは香港大学の学生や担当の先生から受けられる。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館・食堂・Wi-Fi・クリニックはすべて利用可能。図書館にはグループ学習室やPCもある。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
・香港のビジネスの側面 香港は今やアジアの重要なハブとなっていることを痛感した。多くの金融機関はもちろん、飲食店も海外進出の第一歩として香港に進出していることに驚いた。このような発展の背景には、単に地理的・経済的要因だけではなく、政治的な要因も大きかった。中国経済の一部であっても、隔離された自由な経済制度を保つことによって、香港の発展が実現していた。 ・香港の文化の側面 香港＝中国に返還された＝親日ではない、と思い込んでいたが、実際は非常に親日的であり、今後とも経済だけでなく多くの場面で日本・香港の協力関係は深まらだろうと思った。
②参加後の予定
ゼミ合宿のためベトナムに渡航。その後ホテル業界にて約一か月就業。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
特に金融やビジネスに関心のある生徒に薦める。このプログラムでは、普段は会えないようなビジネスマンからお話を伺える貴重な機会がたくさん用意されている。その中で国際的なビジネスの概観や自分自身のキャリアについても考えられる。

その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form
(for programs from a week to 3 months)

Date: 08/19/2017

Faculty/Graduate School at UTokyo:	Graduate School of Economics	Year at the time of Study Abroad	M1
Program Attended:	HKU-UT Summer Program	Host University:	The University of Hong Kong
Occupation after graduation (intended):			
☐	1. Research		
☒	2. Specialist (Medical • Judiciary • Accountant)		
☐	3. Civil Service		
☐	4. NPO		
☒	5. Private sector (Type of industry: Insurance)		
☐	6. Entrepreneurship		
☐	7. Others ()		

Outline of the receiving institution overseas

The University of Hong Kong is one of the most prestigious universities in Hong Kong. It located in a convenient location in the Hong Kong island.

Reason why you decided to participate

Hong Kong is a financial city of Asia. Because my specialization is in quantitative finance, I thought that participating in this program could help me decide what I want to do in the future.

Preparation for the program

(1) Application process (please give any advice on dealing with the application process)

Submit the required documents. There was no interview in my term.

(2) Visa application (type of visa, where to apply, processing time, any advice on visa application)

Citizens of Thailand can stay in Hong Kong without visa for 30 days.

(3) Medical check-ups (health check-ups before departure, inoculations, etc.)

Be sure to participate in the annual medical check-ups provided by the University of Tokyo in the beginning of an academic year.

(4) Insurance (information about insurance for travel/studying abroad purchased)

Travel insurance is required. Just follow the instruction from the University of Tokyo.

(5) Procedures required by your Faculty/Graduate School (any information about course registration, credits, exams, submission of dissertations etc)
I did not submit application for credits.
(6) Language preparation (language level before the program, lessons etc.)
Many HK Chinese, including HKU students, speak good English. Many people in the city can only speak Cantonese, but with some hand gestures one should be able to do basic communication.
(7) Items which should be taken with you from Japan and any other advice on things which should be done before leaving Japan.
Do not forget a plug adapter!! Hong Kong uses British-style plug which is not compatible with Japanese plug. Moreover, the voltage there is 220 volt, so make sure that your appliances are compatible.
Information on the academic/research program
(1) Outline of the program (Style of the lessons/preparation study/review study, thing which left an impression on you, etc.)
Lectures by renowned academics and professionals and field trips to Japanese companies in Hong Kong comprise most of the program.
(2) Advice on aspects of academic/research work
You have to make a final presentation with your group. It is recommended to think about some topics beforehand.
(3) Problems experienced with language issues, advice concerning language, etc.
HKU students that accompanied our group are from Japanese language department. They were more eager to speak Japanese. If you cannot or do not speak Japanese, you might sometimes feel being "out of the group".
Aspects of life
(1) Accommodation (Type (home-stay, room-sharing etc.), cost, atmosphere/appearance of accommodation, how you found it, etc.)
A dormitory room is provided at no charge. You will get a single room or a shared double room, depending on your luck.
(2) Living environment (such as climate, environment around the institution, transport facilities, food, managing your money (overseas money transfer, credit cards))
The weather was hotter and more humid than in Japan. The city's transportation was very good and efficient. Hong Kong food is diverse and enjoyable. If you have an international credit/debit (VISA or MasterCard), you can withdraw local currency at most of the ATMs. Even that said, it might be better to bring enough cash in the first place.

(3) Aspects of risk and safety management (safety of local region, condition of medical facilities, any action taken in maintaining your mental and physical health, etc.)
I did not have any health problems during my stay.
(4) Details of expenses (breakdown of costs, such as airfare, program fees, cost of required books, rent, food, travel cost, money spent on entertainment)
I have my program fee and airfare covered by a generous scholarship from the university. Foods are even more expensive than those in Tokyo. I recommend HKU canteens (there are several) because they provide many affordable and delicious meals!
(5) Financial aid (if you were receiving financial aid/scholarships, please give the name of the source of the aid, amount, and how you found it, etc.)
I received a generous scholarship from the University of Tokyo.
(6) Activities other than academic/research work (sports, cultural, volunteer/internship, weekend activities, etc.)
We had one free day in the weekend for sightseeing.
Environment of the receiving institution
(1) Support facilities for students taking part in the program (such as language, academic, living support mechanism and counseling services)
You can use libraries and common learning spaces in HKU. These facilities are beneficial for doing research in your final presentation.
(2) Facilities (libraries, sports facilities, cafeteria, IT equipment and facilities, etc.)
Libraries (with computers), common learning spaces.
Looking back over the program
(1) The significance of the program and how you have developed by taking part in it, any other impression from having studied abroad
Throughout this program, I learned how Japanese companies and professionals are surviving in fast-changing environment of Hong Kong. Also, I had an opportunity to prepare a final presentation with Japanese students and HK Chinese students. Such multicultural collaboration is not usually found in my daily life in Tokyo.
(2) Your plans having studied abroad
I will find a job in Japan.

(3) Any messages or advice for future participants
You will meet many successful professionals throughout the program. Learn from them and open your mind!
Miscellaneous
(1) Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas
I found that 香港 中国と向き合う自由都市, written by 倉田 徹 and 張 イクマン was very interesting to read before flyting to Hong Kong.
(2) Please submit any photographs which may be used on the University of Tokyo websites or publications.

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 8 月 17 日

東京大学での所属学部・研究科等:	薬学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	香港大学サマープログラム	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☒	1. 研究職	☒	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☐	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☒	5. 民間企業(業界:)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港大学はアジアでもトップクラスの大学で、実際にこのプログラムに参加している学生も、とても優秀な学生ばかりでした。キャンパスは香港島にあって、とても広くきれいで、観光客の方も多いです。

参加した動機

短期でも良いので留学を経験して、普通の海外旅行では経験できないような、現地学生との交流などがしてみたいかった。また英語を実際に使ってみる機会が欲しかった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

指定された書類をしっかりと提出する。学部の国際交流室の方がサポートしてくれました。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特になし

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

指定された保険に加入

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
特になし
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
TOEIC740
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
基本的に現地のお店でだいたいのは買えます。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
一週間ほど、企業の方や大使、先生などのレクチャー(主に英語、たまに日本語)を聞き、その後2日間で班ごとにアポを取った企業、お店などに取材に行ってプレゼンの準備をし、最終日に英語でプレゼンをしました。プレゼンテーマは'Japan in Hong Kong: Challenge for the Future'という大題にそって、各班で設定しました。
②学習・研究面でのアドバイス
参加するにあたって自分なりの目標を持っておき、それを達成できるように努力すると良いと思います。
③語学面での苦労・アドバイス等
もともと英語が得意なわけではなかったので、普段のレクチャーも聞き取れないことはありました。グループワークでは、香港大学の学生が相当に日本語ができたため、困ることはありませんでした。(香港大学の学生は日本留学をする(orした)人がほとんどで、日本語を練習したいという人も多いと思います。)
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
HKUの寮。1人ないし2人部屋で、冷房もあります。また、共用スペースもあって、そこでミーティングをやる班も多かったです。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
外は湿度が高く大変蒸し暑いですが、室内は日本に比べて冷房がききすぎていることも多々あるので、上着などで調節できるようにしておくことが必要だと思います。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は良いです。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空券4万、プログラム参加費3万、食事娯楽費が3万で、合わせて10万円ほど。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
Jassoの奨学金7万円
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
ビクトリアピークに登ったりランタウ島のビーチや長洲島に行ったりしました。ご飯も、香港大学の学生がいろいろな所に連れて行ってくれました。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
企業へのアポは、先生のコネクションを使って取ることができる場合もあるので、積極的にTAや先生に相談をしてみると良いと思います。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館はとてもきれいで使いやすいです。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
英語のレクチャーやプレゼン等、短期間でたくさん経験し、刺激を受けられました。また今まで知らなかった香港と日本の様々な面におけるつながりを理解することができました。そして、香港大学の学生はもちろん、普段会うことのできないような他学部の東大生や留学生と交流できたことも、とても良かったです。
②参加後の予定
大学に通います。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

ぜひ参加してみてください!!

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年8月25日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	香港大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☐	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☒	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☒	5. 民間企業(業界:)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港大学は、香港(香港島)にある大学で、1911年に創立されました。孫文は香港大学の卒業生です。

参加した動機

海外で行われるビジネスに関心があったから、香港人の友人がおり現地の生活や文化を体験してみたかったから

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

必要な書類の提出を期限内に終わらせられるように、スケジュールをしっかり把握しておくことが大切です

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは不要でした

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特に準備はしませんでした。薬などは現地でも買えます

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

付帯海学に加入しました

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等)に関して)

夏期期間のプログラムだったため、特に何もしませんでした

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
時間がなかったので、何もませんでした
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
ウェットティッシュがあると便利かもしれません
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
プログラムは全体で約2週間。そのうち最初の10日ほどは、大学でのレクチャーや企業訪問がメインでした。プログラム終盤は最終発表に向けた準備を行いました。また発表準備のためにグループごとに企業を訪問しインタビューを行うこともありました。
②学習・研究面でのアドバイス
睡眠時間をしっかり確保しましょう
③語学面での苦労・アドバイス等
発表に向けて議論が白熱することがよくあるのでそれについていくのが大変でした
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
香港大学の学生寮、Shun Hing Collegeの部屋が割り当てられます。一人部屋も二人部屋もありますが一人部屋の方が多いです
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
夏の香港はとても蒸し暑いので過ごしやすい格好をした方が良いでしょう
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は悪くないです。ただ外出する際は基本的に香港大学の学生と一緒にいるようにしていました
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
プログラム自体の費用の他に、航空券、生活費含めて10万円強くらいです。ここから奨学金で7万円は戻ります

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSOの奨学金が7万円支給されました
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
週末には香港を観光しました。観光するだけでは行きづらいレストランなどにも行くことができました
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
園田教授は学生と一緒に寮に泊まってくださいました。またプログラムに参加する香港大学の学生は基本的に日本語がとても上手いです
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
食堂はいくつかありますが、朝食費などを抑えたいならスーパーで買っておくといいです
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
ほぼ初対面同士で2週間という長期間を過ごすこと、言語の違いがある中で協力して発表の準備をすること、香港という都市を観光というよりむしろ「探検」することを通じて、初めての環境に適応していくことができるようになってきたと感じています。
②参加後の予定
法学部に進学します。このようなプログラムにも機会があればまた参加したいです
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
迷ったら応募してみましょう、住環境など慣れないこともあるかもしれませんがとても楽しく学びの多いプログラムです
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年8月25日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:	東京大学香港大学合同サマープログラム2017	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☐	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☐	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☐	5. 民間企業(業界:)	☐	6. 起業
☒	7. その他(未定)		

派遣先大学の概要

--

参加した動機

自身の将来について具体的な目標が定まっておらず、様々な経験や人との出会いを通じて、見識を広げ、自分が将来進む道について深く考えることに役立てたいと考えました。また、現地の学生との英語でのコミュニケーションを通じ、実践的な英語力を向上させたいと考えました。また、来年度以降部活動が多忙になるため、今年が夏休みを自由に使える最後の機会だと考え、思い切って応募することを決意しました。
--

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特に学部一年生に向けてですが、テスト勉強と渡航準備を並行して進めなければならないので、書類の締め切りや準備すべきものをリスト化し、早くから計画的に進めることが大切です。私の場合、出発前日まで期末試験があり、前日夜に荷造りでかなりパタパタしてしまいました。手続き上の疑問点などは、悩むより迷わずメール等で確認するべきです。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

必要ありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

健康診断や予防接種は受けていませんが、体調を崩さないよう、出発前から睡眠時間の確保と規則正しい生活を心がけました。日数分+αの常備薬の他、万一来港して下痢止めや風邪薬を用意するに越したことはないと思います。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

加入必須の「付帯海学」の他、OSSMAへも加入しました。特に使用機会はありませんでした。これ以外の保険は必要ないと思いますし、加入手続きも他の手続きと同様に進めれば何も問題ありません。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
前期教養の学生には単位認定がありませんので、レポートなどの提出はありません。本部国際交流課(WEB上アップローダー)に提出する渡航情報届を忘れることはないと思いますが、特に1、2年生の皆さんは、渡航1ヶ月前までに教養学部への提出が必要な海外渡航届に注意しましょう。アドミニストレーション棟で提出できます。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
期末テストもあったため、特にこのプログラムに向けた英語学習を行う余裕はありませんでした。現地学生は日本語が堪能なため、プログラム中困ることはないと思いますが、リスニングやスピーキングをしっかり練習して臨めばより有意義なプログラムになると思います。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
後述します。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
大きな柱は、香港の日本と関わりを持つフィールドで活躍されている方のレクチャーを聞くことです。香港で日本人が起業した企業の社長や、香港の日本総領事の方、香港にある日本企業の商工会議所の事務局長の方など、普通は会うことすらできないような方々から、香港の歴史や、香港における日本企業などについて学ぶことができます。そのほかにも、ヤクルト生産工場や香港国際空港のバックグラウンド見学等により、香港の様々な産業の様子を肌で感じることができます。最後には、5人程の班(東大香港大合同)で、テーマに沿ったフィールドワーク(インタビューなど)を自分たちで計画して2日間行なった後に、それに基づいた15分程度のプレゼンテーションを行います。私たちの年のテーマは"Japan in Hong Kong; challenge for the future"で、私たちの班では香港における日本食産業の現状と課題について発表しました。
②学習・研究面でのアドバイス
渡航前に配布されるリーディング・アサインメントは、分量こそ多いものの、読めばプログラムが何倍も有意義になることは間違いありません。余裕があれば、香港についての本を一冊購入し、渡航までに読んでおくのも良いでしょう。ただ、歴史や経済、ビジネスなどの専門的な知識が要求されるプログラムではないので、あまり心配することはないと思います。プレゼンに関しては、渡航以前に、香港大生を交えた話し合いのもと、具体的なテーマを決めておくことをお勧めします。フィールドワークの計画に余裕ができ、プレゼン準備を円滑に進めやすいからです。インタビューのアポイントメントについては、プログラム内で企画されるであろう、香港の東大OBOG会「淡青会」への参加でコネを作って活用しましょう。
③語学面での苦労・アドバイス等
プログラム自体は英語で行われますから、リスニング、スピーキングを中心とした実践的な英語力を身につけておくとは有意義な時間を過ごせると思いますが、現地学生は日本語が堪能であるため、日常会話等で苦労する機会はほとんどないと思います。実際私は、渡航前に(定期テストもあり)特に本プログラムに向けた英語学習を行いませんでしたが、大きく困ることはありませんでした。プレゼンはALESS/ALESAやFLOWの経験を大いに活かしましょう。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学寮の一つであるShun Hing College に、香港大側のご好意で無料で宿泊できます。ベッド、シャワー、トイレ、コインランドリー、冷蔵庫以外には何もないと考えた方が良いでしょう(石鹸や洗濯洗剤から用意する必要があります)。中履き用のサンダルと、ハンガーなどの洗濯物干しは持っていくととても役に立ちます。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

湿度が非常に高くとても蒸し暑い一方、屋内はエアコンが効きすぎているので、羽織るものを持ち歩くと同時に、乾燥にも気をつけてください(班員が一人風邪を引いていました)。交通手段は、現地学生に任せておけば良いですが、日本の電車のシステムと大きく変わりません。Suicaのようなカードにチャージしながら利用できます。食事に関しては、現地学生が案内してくれます(費用に関しては後述)。何を食べても基本的に美味しいです。お金については、クレジットカードが使えない場所も多いので、現金を多めに持っておくことをお勧めします。3万円分程度が良いでしょう。もちろん現地での両替は可能です。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安に関して、もちろん用心に越したことはありませんが、香港の犯罪率は東京より低いと言われており、それほど気にしすぎることはないと思います。健康管理については、現地生から飲み会に誘われることがあるので、「ほどほどに」楽しんでください。特に未成年の皆さんは、香港での飲酒は合法となりますが、慣れないことをして体調を崩さないようにすべきだと思います。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券は往復で4~6万円程度でしょうか(2万円というツワモノがいましたが)。授業料、教科書、家賃は気にする必要はありません。交通費に関しては、私は400HKD使いました。空港-香港駅間の100ドルが大きいと思います。食費は、肌感覚ですが、朝30~40ドル、昼30~60ドル、夜60~90ドルくらいだったように思います。厳しければ、現地生に安いものがないと伝えるのも良いでしょう。娯楽費ですが、全休となっている日曜日をいかに使うかによります。ディズニーランドに行くなら、入場料500ドルは必ずかかります(結構痛いと思います)。私は地下鉄を使いながら色々な駅周辺を散策しましたが、200ドル強しか使いませんでした。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

プログラムに対する奨学金として7万円を受給することができます。費用全てのカバーは難しいにしても、とてもありがたい額だと思います。振り込みはプログラム終了後です。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

休日の過ごし方は前述の通りです。その他の活動についてはほぼ時間がないと言っていいと思います。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

ほぼこれまでに述べたとおりです。短い滞在ですから、それほどサポートが必要な機会はないと思いますし、実際特に困ることはありませんでした。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

大学の図書館には、パソコンや、パワポ表示用の大きなディスプレイを備えた学習室などがあり、プレゼンの準備に活用できます。学内には食堂が複数あり、どこも比較的安価で美味しいです。スターバックス、ベジタリアンレストランなど、種類も様々です。寮、大学内どちらでもWi-Fiを使うことができ、論文へのアクセスもあります。学内には香港大学グッズを扱うお店もあるので、立ち寄ってみるのも良いでしょう。

プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
講義は滅多に聴くことのできない貴重なものばかりです。またグループでのフィールドワーク、プレゼンテーションと言ったアクティブな活動は、普段の授業等ではあまり機会がありません。このような非日常的な体験を通じて、様々なものの見方や考え方に新たな視点が加わったように感じています。本プログラムでの学習はビジネスが中心ですが、自分の将来や専攻に関係なくても十分に有意義なものだと思います。香港は中国、日本などの大国と、東南アジア諸国を経済的に結びつけるパイプラインのような役割を果たしており、香港について学ぶことでそれらの国々への視点が一気に広がるからです。逆に、単純に英語力を高めたいという方にとっては少し物足りないかもしれません。
②参加後の予定
他の短期プログラムや長期留学など、あらゆることを視野に入れています。今回の経験を通じて、海外での学習に対する精神的なハードルは大きく下がったように感じます。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
費用的にも苦しくありませんし、間違いなく非常に有意義で楽しい、心からお勧めできるプログラムです。悩むくらいなら思い切って応募するのが吉です。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
吉田雅之、倉田徹(2016)「香港を知るための60章」明石書店 香港という国の概要を知ることができます。香港大文学部の教授であり、プログラムでたくさんお世話になるであろう中野嘉子先生の執筆記事も5本収録されています。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 8月 21日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	香港大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
✓	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港最古の大学。香港島西部にキャンパスを有する。卒業生に孫文などがいる。

参加した動機

中国に興味はあったが行ったことがなかったため申し込んだ。将来の留学を見越して英語力の向上の一助にもなると考えたことも動機の一つ。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

提出するものが多いので余裕を持って準備した方がいい。ただ説明に従って手続きを行えばトラブルなどはないと思う。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

不要だったため特になし。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学指定の保険に加入。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
英検一級を直前に取得した。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
プレゼンで着用するスーツ。とはいえ現地調達で十分対応できるものが多いのであまり気にならなかった。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
香港における日本企業のあり方を学ぶのが主な内容。様々な企業を訪問したり、偉い人たちからお話を伺える。また香港大学の教授からは香港の歴史や言論の自由についての講義を受けた。初日に東大同窓会の淡青会に招待していただいたが、そこで香港で働く東大OB/OGの方のお話を聞いたのが印象深い。
②学習・研究面でのアドバイス
講義は主に英語が用いられるので一定の英語力がいると思う。しかしHKUの学生と共同でプレゼンを行うが、ほとんどの学生がびっくりするほど日本語が流暢なので日本語さえできれば実は問題ないとも言える。広東語ができればより楽しめると思う。
③語学面での苦労・アドバイス等
講義によっては英語についていけず言語の壁を感じた。せっかく香港に来たのだから広東語を少くらしい勉強したいと思い、HKUの学生に広東語を習ったがほとんど忘れてしまった。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
一人部屋か二人部屋。(幸運なことに)私は一人部屋だった。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
屋外は気温湿度共に日本より高く過ごしづらい。よりにもよってなぜ8月に香港に来てしまったのかと少し後悔した。屋内は逆にエアコンがよく効いていて日本より寒い。オクトパスカード(日本でいうsuica)必携だが現金でないとチャージできないのでそれなりに現金が必要。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は非常に良い。エアコンで一時体調を崩した。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空券で6万円、プログラム費3万円で宿泊費は免除だった。その他に食費娯楽費がかかった。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
7万円を大学から支給していただいた。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
ディズニーランドに行った。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
街に出るときも香港大生と一緒に行動したので心強かった。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
グループ学習室のような場所を使えた。食堂はメニューが豊富で安くて量が多い。ただし気をつけて注文しないと得体の知れない料理が出てくる。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
英語の講義を連日受けるというのは初めての経験でためになった。現地のビジネスマンに直接話を聞いたことも貴重な体験だったと思う。また他学部他学年の学生と交流でき、いろいろなことを聞けてよかった。香港から帰国後心変わりして進振り先を変えた。
②参加後の予定
長期休暇中に留学ができるよう準備を進めている。今後も同様のプログラムがあれば進んで申し込んでいきたい。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
2週間弱と短期間で費用もそこまでかからないので気軽に申し込めるプログラムだと思う。一方で中国と香港の複雑な関係性を理解できるようよく組まれたプログラムで、現地で働く日本人の話を聞くこともでき、自らの人生設計において参考になる貴重な経験ができる。最終日にグループで調査した結果をプレゼンしたのも良い経験だった。ぜひ参加してほしい。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 8 月 12 日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	HKU-Utokyo Joint	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

東京大学側から17人、香港大学から7名が参加して11日間のプログラムを開催。最終的には“Challenge for future”というテーマのもとでプレゼンテーションをグループごとに行われた。香港でビジネスを行っている人のプレゼンを期間中は聴講する。

参加した動機

私自身が香港のビジネスに対して関心を寄せていました。成長している中国本土との架け橋的な存在である香港においてはどのようなビジネスが行われているのか、ということに対して興味がありました。本プログラムでは実際にビジネスをしている方のお話を聞くことができるということだったので参加を志望しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

参加許可されてから実際に現地に行くまでの期間が短かった。公式のアナウンスに関しても直前にのみ行われていたために、特に航空券の確保は早めに行った方がいいと思った。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザ不要

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

不要

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

学内の海外傷害保険に加入。1日あたり400円ほど。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

学部に対して旅行届を提出。Aセメスターにおいて履修登録。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
特になし。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
電源の変換装置。ランドリー用品(洗剤、ハンガーなど)。携帯用Wi-fi
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
基本的には教授による講義を受ける、もしくは香港においてビジネスを展開している企業の責任者からの講義を受けることになる。講義においては質問を求められる。また次の日において前日の復習として生徒が印象に残っている内容などを発表することを求められる。訪問企業においては現地でのようにして差別化を図っているのか、また現状直面している問題は何なのかを具体的に説明してもらえる。また質問に対しても丁寧に回答していただく。どちらかというと受動的な学習というよりは半受動半主体的なプログラムであった。
②学習・研究面でのアドバイス
事前に共有されている資料などを読むことが推奨される。ほとんどの講義において、その講義についての簡単な説明や、関連する記事などがDropboxを通じてシェアされる。興味のある内容に関しては自分でネットを通じて情報を入手することができ、理解を深めることができる。内容としては専門的な内容はほとんどないので学部で学ぶ内容は関係ない。
③語学面での苦労・アドバイス等
全て英語で行われ、またグループメンバーとの間では英語を通じてコミュニケーションを取ることが求められる。最初の方は英語を話すことに対して抵抗を感じるが、プログラムの中で自分から話す姿勢があれば徐々に慣れてスムーズに連絡を取ることができる。香港大学の学生は特に英語が上手なので問題はない。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
香港大学の寮に宿泊。先方の好意により宿泊代は無料。東大の学生と香港大学の学生は同じフロアに止まる。シングルの部屋とダブルの部屋がある。ラウンジも存在し、そこでグループのメンバーとコミュニケーションをメインに取ることになる。ランドリー環境あり。ただし近くのコンビニまでは急な坂を歩かなければならないのが手間。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
気温が熱く、蒸し暑い。治安は良い。物価は全体的に安くは概ね日本と同じくらい。交通機関としては地下鉄があり、だいたいその地下鉄を使用すれば十分で、タクシーは安い。だいたいの店でクレジットカードを使用することが可能。現金をたくさん持ち歩かなくてもクレジットで調整することが可能。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安はいい。水に関しては生水を避けた。食品に関しては概ね安全。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空費:¥50,000 授業料:¥30,000 食費:¥20,000 交通費:¥6,000 娯楽費:¥20,000
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
GEFIL-GLPから8万円支給。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
短期だったので実質的に休みとしては一日。グループメンバーと香港の街を満喫することができる。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
TAが英語、日本語、中国語全てできたために、基本的には困ったことがあれば相談することができる。またグループメンバーに香港大学の学生が入っているので気軽に相談をすることができる。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館でグループワークをする場所が設置されている。 食堂は複数存在。学内Wi-Fiにだいたいの場所でアクセスすることが可能。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
プログラム自体は11日間と比較的短期間であるが、プログラム内容全体として濃厚であるために不十分とは思わない。あまり暇な時間がないために、効率的に香港の環境を味わって海外でビジネスをすることとはどのようなことなのかを理解するにはとてもいい機会だと感じた。実際にプログラムに参加したことによってより日本のことについて調べる契機になったり、海外でビジネスをしている方とお話することにより、よりリアルに海外で働くこととはどのようなことなのかを理解することができるようになった。またグループワークを密に求められるので社会性を身につける機会にもなる。
②参加後の予定
学部における勉強、GLPのプログラムを通じた学習
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
海外のビジネスに対して関心を寄せている学生は文理・学部を問わず参加すると実際の環境をイメージすることができるのでとても有用だと感じました。

その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
Skyscanner(航空券)
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。
希望しない

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 8 月 25 日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	香港大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
✓	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港大学。香港大学から参加したのは3~4年生の日本語専攻の学生が多かった。

参加した動機

海外の学生とディスカッションする機会を得たかったことや、海外で働くのに興味があったためそれがどういうことなのかを知りたかったことが動機です。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

必要な書類をそろえてアドミニ棟に出さなければならないが、そろえる書類が何種類もあり、アドミニ棟の閉まる時間も早いことには注意すべし。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

必要ない。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

必要ない。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

学校で指定されたもの以外は入っていない。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
特になし。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
寮で使うサンダルや洗剤。改まった場に行くことが多いので正装とそれに合う靴は必要。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
香港にある日本企業で働く駐在員や総領事からお話を伺ったり、東大のOGOBと交流し、香港でビジネスをすることについてのお話(英語でのプレゼン)が多かった。事前に先生からプレゼンターについての論文や記事を読むことが課された。座学だけでなく、JALの訪問では実際に空港の滑走路に下りたりコックピットに入って説明を受ける体験ができたのがおもしろかった。印象的だったのは、多くのプレゼンターが説明してくださった香港でビジネスを行うメリットについてで、中国と全く違う体制を持ちながらも中国に入る窓口になるという両面性を知ることができた。
②学習・研究面でのアドバイス
最終プレゼンのテーマは早めにグループで決めたほうがいい。事前に目標みたいなものがあるとより有意義になるかもしれない。
③語学面での苦勞・アドバイス等
ひさびさに英語を使う機会であり、ディスカッションできるか不安があったが、大丈夫だった。香港大学の学生はみんな日本語が上手で、ディスカッション以外は日本語を使ってみんなで楽しんだ。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学の寮で過ごした。大学の隣の駅にあり、信じられないほどの急な坂の上にある。シャワー、トイレなどは共有。女子は香港大の子とのルームシェアが多く、仲良くなることができた。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
湿度が非常に高いが、どの建物も冷房がよく効いているため、上着は必須。大学は山の中にある感じで香港大の子と一緒にいないと迷子になりそう。交通機関については、地下鉄を使うとどこにでも行くことができる。クレジットカードは意外と使えることが少なく、食事でも割り勘が多いため、多めに交換しておくべき。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
日本より犯罪率が低く、安心して行動することができる。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
プログラム費は3万円、宿泊費は無料、航空費は6万円ほど。あまり日本と値段は変わらないので食費や娯楽費はそれなりにかかる。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
学校からのものをいただいた。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
平日は夕方までレクチャーがあり、あまり自由に活動する時間はなかった。土曜の午後と日曜はフリーだった。土曜の午後はディスカッションに費やし、日曜は飲茶とディズニーランドに行き、みんなとの親睦が深まった。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
最終プレゼンの準備を学校のラーニングコモンズで行ったが、広くてとてもきれいだった。Wi-Fiも強くて便利。昼食は食堂で食べることが多かったが、食堂は何か所もありメニューも豊富だった。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
英語をネイティブ並みに話す海外の学生とディスカッションする機会はなかなかないため、いい経験となったし、日本人の消極性を思い知らされた。話を聞いて終わるのではなく、自分の意見を考え、英語が正確でなくても積極的に質問をしたり意見を述べるように意識した。
②参加後の予定
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
香港について無知だったが参加して興味深いお話を聞けたり、全く異なるバックグラウンドを持った香港人と親睦を深めることができ、非常にいい経験であった。狭い世界に閉じこもるのではなく外に出て切磋琢磨してほしい。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
事前課題として先生から送られる資料。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 8月 20日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	HKU-U Tokyo Joint Summer Program	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
✓	3. 公務員		4. 非営利団体
✓	5. 民間企業(業界: 食品)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港大学。シンガポール国立大や東大などと並びアジアで最も有名な大学の一つ。授業はすべて英語で行われているらしい。

参加した動機

それまで海外滞在経験がなかったので、海外に行ってみたかったから。フィールドワークや見学を通して、現地の企業のことを知れたり、現地で活躍するビジネスマンにお会いし話をお聞きできるという内容に魅力を感じたから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

インターネットにアップロードされる募集要項に従って申し込めば大丈夫です。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

必要ありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特にありませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

参加者は「付帯海外留学保険」に加入するよう言われました。自分はOSSMAも申し込みました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

前期教養学部でしたが、特にありませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

TOEIC700点くらいでした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
ハンガー、ティッシュペーパー。英語の勉強。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
午前中は大学に行き、午後は企業などへ行き話を聞くという形式でした。リーディングリストがあり、事前に読んでくるよう言われてはいました。また最終日はグループごとのプレゼンで、前日と前々日がグループごとのフィールドワークの時間に充てられていました。私たちは現地で活躍する日本の建設会社へ伺い、話をお聞きました。
②学習・研究面でのアドバイス
内容自体はそんな難しくはないと思うので、英語の能力が十分であれば問題ないと思います。
③語学面での苦労・アドバイス等
やはり英語力は十分ではなく、グループでのディスカッションで、他のメンバーが言っていることが理解できないことや、自分の意見を主張することができない場面が多々ありました。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
全員が香港大学の学生寮に入りました。一人または二人部屋で、シャワー、トイレは共用でした。洗濯、乾燥機は1回10ドルくらいで利用できました。その他、冷蔵庫、キッチンも使えましたが、自炊するには十分な調理道具などがなかったため厳しいと感じました。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
湿度が高くとても暑く感じました。寮は最寄りの地下鉄の駅から徒歩10分ほどのところにありました。駅周辺にはスーパー、コンビニ、飲食店が揃っていました。現金はクレジットカードのキャッシングで適宜おろしました。クレジットカードはほとんど利用しました。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安はいいと思います。医療機関等は利用していないので分かりません。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空費往復(ANA):約55000円、プログラム参加費:30000円、保険料・OSSMA:約8000円、現地で使った費用:約40000円
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSO奨学金を、受給しました。70000円でした。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
土曜の午後、日曜日はフリーでした。自分は町中を散策していました。

派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
特別なサポートはありませんでした。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
食堂がいくつかあり、朝食や昼食をとるのに利用しました。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
香港において、日本企業が直面している問題に対しての理解が深まりました。香港大の学生の語学力や問題発見力、課題解決力の高さに圧倒されました。
②参加後の予定
学部に在学
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
短期間ではありますが、多くのことを学べるプログラムになっていると思います。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
与えられたリーディングリスト
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。